

決済プラットフォーム

stripeと fincode

の徹底比較

stripe



DIRECT HOLDINGS

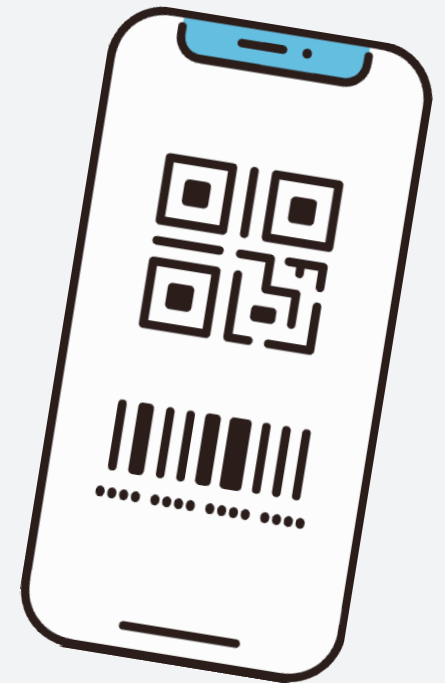


▶ 目次

- はじめに
- ① オンライン決済プラットフォームとは
- ② オンライン決済のメリット・デメリット
- ③ stripeとfincodeの比較
- おわりに

▶ はじめに

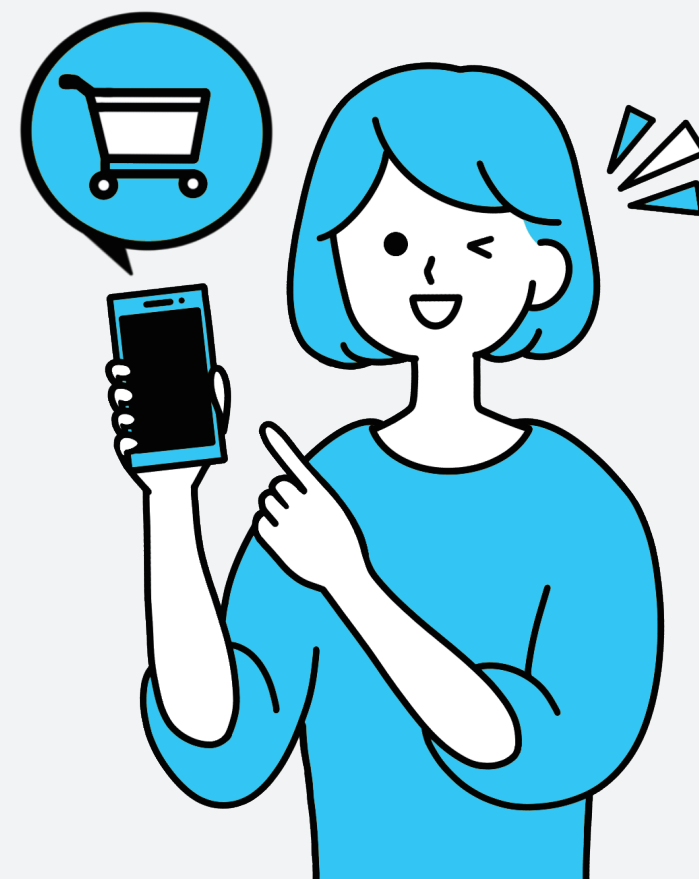
Web サービスや EC ストアを運営するにあたり重要なポイントの一つが、**サービス購入時の決済処理**です。ユーザーの利用しやすさはもちろんのこと、決済システムのランニングコストやサイバーセキュリティ面でのリスクなど、クリアすべき課題が多い分野でもあります。そうした中で、決済システムの構築を請け負ってくれるプラットフォームの存在は極めて重要です。本資料では、決済プラットフォームの概要、そして、代表的なプラットフォームである **stripe** と **fincode** の特徴についてまとめていきます。



▶ 1. オンライン決済プラットフォームとは

オンライン決済プラットフォームは、インターネットを介して商品やサービスの支払いを処理し、オンライン取引を可能にするサービスの総称です。

オンラインショッピング、デジタルサービス提供、寄付、サブスクリプション商品などさまざまな用途に使用されています。



オンライン決済プラットフォームの機能

オンライン決済プラットフォームで提供される機能には、以下のようなものがあります。

支払処理

クレジットカード、デビットカード、電子財布、銀行振込など、さまざまな支払い方法を受け付けます。



通貨と国際対応

異なる通貨や国際的な支払いを処理できるプラットフォームも多くなってきました。これは、国際的な取引を行う事業者にとって重要です。



アナリティクス

トランザクションデータを収集し、事業者が売上データや顧客傾向を分析できるようにするためのアナリティクスツールが付属していることがあります。



セキュリティ

顧客の支払い情報を保護し、不正利用から守るために高度なセキュリティ対策を講じます。SSL 暗号化、二要素認証、不正利用検出などが一般的なセキュリティ対策です。



顧客サポート

サポートはトランザクションに問題が発生した場合に重要です。プラットフォームは、顧客が支払いに関する疑問や問題を解決するためのカスタマーサポートを提供することが一般的です。



▶ 2. オンライン決済の メリット・デメリット

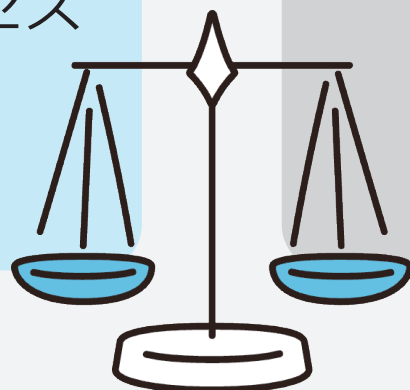
個別のサービスについて考える前に、オンライン決済のメリット・デメリットを見ていきましょう。

メリット

- 顧客への利便性
- グローバル市場へのアクセス
- 自社リソースの削減

デメリット

- 手数料
- システム障害のリスク
- サイバー攻撃のリスク



手数料

重要なポイントが、手数料です。オンライン決済プラットフォームでは手数料の相場は **3～5%** とされ、事業者にとって無視できない金額が課されることになります。課金方法にもいくつかの種類があり、それぞれの費用規模や自社の事業との親和性を評価する必要があります。

初期費用

導入費用の相場は、5万円前後とされています。サービスによっては初期費用無料とし、導入以降の課金で収益を上げるビジネスモデルを採っているものもあります。

月額費用

月額費用の相場は5,000円前後。こちらも、無料としているサービスもあります。

決済費用

決済の都度にかかる手数料。先述の通り、3～5%が相場です。

トランザクション費用

決済データを銀行に送る際にかかる費用です。



システム障害のリスク

決済プラットフォームでシステム障害が起こると、自社サービスの提供が滞ってしまいます。例えば 2021 年 9 月、決済システムを提供するソニーペイメントサービスでシステム障害が発生、クレジットカード決済に接続しにくい状態が生じました。

クレジットカード決済システムの障害発生のご連絡

【9月30日 お詫びと訂正】

2021年9月29日に発生した弊社クレジットカード決済システム障害につきまして、調査の結果、弊社クレジットカード決済システムに接続しづらい状態が発生していた時間帯は、次の通りでしたので、訂正させていただきます。

発生時刻: 2021年9月29日 13時59分

復旧時刻: 2021年9月29日 14時29分

上記時間帯に、弊社クレジットカード決済システムをご利用いただいております加盟店様のECサイト等において、購入処理およびカード登録・変更処理等が利用できない事象が発生しておりました。

なお、本障害はサイバー攻撃等によるものではなく、また、お客様の個人情報の流出はございません。

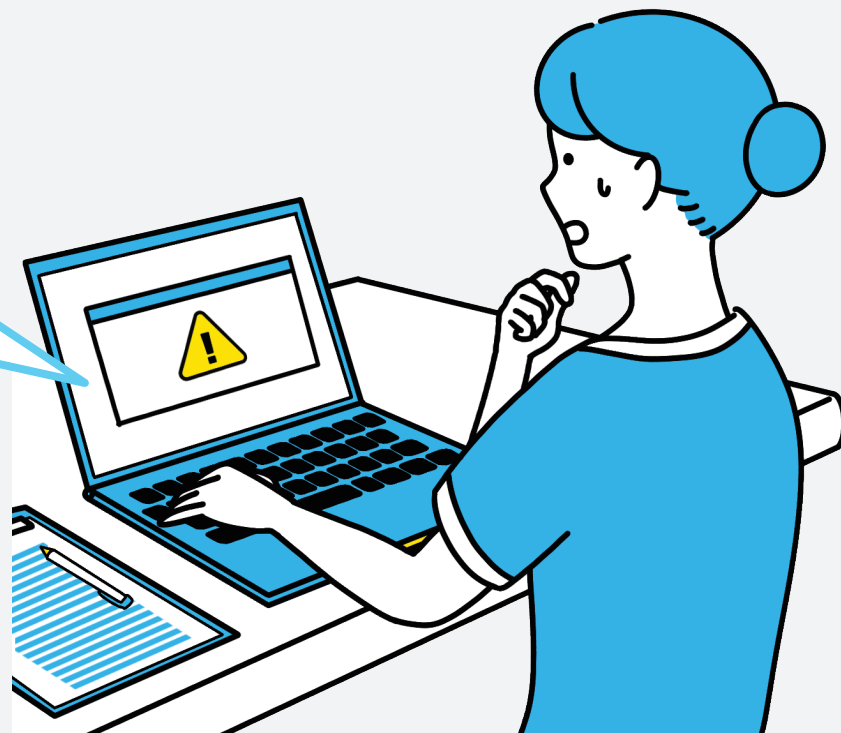
皆様にご迷惑をおかけいたしましたこと、重ねてお詫び申し上げます。

システム障害発生時のソニーペイメントサービスのWebサイト。システム障害の発生頻度に加え、復旧のスピードや情報公開の透明性など、信頼できる対応をとっているかどうかウォッチすることが大切だ。

サイバー攻撃のリスク

Web サービスには、サイバー攻撃のリスクが付き物です。被害額が大きくなることも多く、例えば 2019 年にはセブンイレブンが提供していた決済サービス「セブンペイ」が多数の不正アクセスを受け、サービス提供中止に追い込まれる事態となりました。被害額は 3000 万円を超えるとされています。

ソニーペイメントサービスが提供する「認証アシストサービス」。
利便性やブランドだけでなく、技術的にサーバーセキュリティの水準が高いサービスを選ぶべきだ。



▶ 3. stripe と fincode の比較

代表的なオンライン決済プラットフォームが、stripe と fincode です。両者とも世界で大きなシェアを占めており、これから**オンライン決済プラットフォームを導入する事業者にとって有力な選択肢**となります。ここからは、それぞれのプラットフォームの特徴について詳しく見ていきます。



stripe とは

stripe は、代表的なオンライン決済プラットフォームの一つです。グローバルに事業を展開してきた実績の大きさが特徴で、

- 対応通貨は 135 以上
- 現地アクワイアリングが可能な国数は 47 以上
- 稼働時間は 99.999%
- 1 日の API リクエスト数は 2 億 5 千万件以上

と、他のサービスを寄せ付けない圧倒的な数字を残しています。

The Stripe logo, featuring the word "stripe" in a bold, dark blue, sans-serif font. The letter 'i' has a small horizontal bar above it, and the 'e' has a small horizontal bar to its right.

fincode とは

fincode は、GMO インターネットグループで開発された比較的新しいオンライン決済サービスです。公開日は 2022 年 5 月 18 日。オンライン決済プラットフォームとして代表的な存在であった stripe に対し、挑戦を挑んでいく立場となります。

新しいサービスではありますが、**最短で当日中にトライアル可能なスピード感や、PCI DSS 準拠のセキュリティ体制など、バランスの良く機能を充実させている**のが特徴です。



比較の観点

比較の観点としては、以下のようなものがあります。

手数料とコスト 先述の通り、課金形態にはいくつかの種類があります。自社サービスに適合した形式を検討しましょう。

セキュリティ プラットフォームがどのように支払い情報を保護し、不正アクセスから守っているかを確認しましょう。PCI DSS などのセキュリティ規格を満たしているかも重要なポイントです。

通貨と国際対応 海外展開を検討している場合、プラットフォームが異なる通貨と国際的な支払いをサポートしているかどうかを確認しましょう。為替手数料や為替レートも考慮に入れましょう。

顧客サポート プラットフォームが提供する顧客サポートの品質や対応時間を確認しましょう。

対応決済方法 顧客がどのような支払い方法を利用するか考え、プラットフォームがそれらの支払い方法をサポートしているか確認しましょう。

アナリティクス プラットフォームが提供するアナリティクスツールを活用して、売上データや顧客傾向を分析できるかどうかも重要です。

API およびカスタマイズ API の機能等についても確認しましょう。これにより、ビジネスのニーズに合わせた統合や機能追加が可能になります。

信頼性と稼働率 障害やサービス停止の頻度を確認しましょう。

コスト比較

いくつかの観点から、具体的に比較を行ってみましょう。まずは、stripe と fincode のコストを比較してみます。実は、標準プランにおいては、stripe と fincode は全く同じ条件となっています。これに加え stripe では複数製品購入時の割引や国別の手数料など、オプションプランが若干数存在します。

The Stripe logo, consisting of the word "stripe" in a bold, dark blue, sans-serif font.

(標準プラン)

初期費用：無料

月額費用：無料

手数料：3.6%



初期費用：無料

月額費用：無料

手数料：3.6%

国際対応

stripe はアメリカから、fincode は日本から発祥したサービスです。そのため、機能面でも若干の差異があります。stripe は多言語に対応し、海外進出の実績も多いため、今後海外市場への進出を考える企業には向いています。一方、fincode は日本発祥のため、日本語対応や日本企業との親和性の面で優れています。自社の特徴に合わせて選択しましょう。



stripe

運営会社：アメリカ所在
展開：135 か国以上



運営会社：日本所在
展開：日本中心



▶ おわりに

stripe と fincode という 2 つの代表的なサービスを中心に、オンライン決済プラットフォームの機能や役割について掘り下げました。

実際にサービスを選択する際は、他にもたくさん存在しているオンライン決済プラットフォームを広く比較検討する必要があります。

しかし、基本的な比較検討のポイントは変わりありません。手数料やセキュリティなど、重要な点を押さえ、自社サービスに合ったプラットフォームを選択しましょう。



最後までお読みいただき、 ありがとうございました。



DIRECT HOLDINGS

ダイレクト・ホールディングスは、
デジタル・マーケティング事業、
SNSマーケティング事業、PR・
キャスティング事業をはじめ、
多彩な人材やノウハウを持つ
広告代理店です。

マーケティングに関するお困り
ごと、ご相談がある際は、
お気軽にご連絡ください。

【お問い合わせ】

東京本社 〒163-1439

東京都新宿区西新宿 3 丁目 20 番 2 号

東京オペラシティタワー 39 階

電話番号：03-6416-4822

FAX：03-6416-4823

contact@direct-holdings.co.jp